

明日の嵐を予感して
今を絢爛と咲く女たち
谷崎芸術の極致と
市川リリシズムの融合が開く
新しい映像美の世界

戦争の足音が
日本中を覆いはじめた頃
大阪船場の
名家・時岡一族は
華麗な歴史を
閉じようとしていた。
斜陽に映える
満開の桜のように
限らない優雅さで
時代の幕を引いたのは
その美しい
四姉妹であった。

長女・鶴子
岸 恵子



次女・幸子
佐久間 良子



三女・雪子
吉永 小百合



四女・妙子
古手川 祐子

細雪

市川 崑監督作品
谷崎潤一郎原作

(新潮文庫刊)

東宝創立50周年記念映画

佐久間 良子
吉永 小百合
古手川 祐子
伊丹 十三
石坂 浩二
岸 恵子

製作 ● 田中友幸
企画 ● 馬場和夫
製作補 ● 高井英幸
脚本 ● 市川 崑
台詞校訂 ● 日高真也
衣裳監修 ● 斉藤 寛
製作 ● 株式会社東宝映画
配給 ● 東宝株式会社
協力 ● 清酒 白雪

東宝 50th ANNIVERSARY 東宝創立50周年

市川崑監督作品
谷崎潤一郎原作（新潮文庫刊）

細雪

くすめゆき

杉本



解説

四季折々の風物を絡めながら、四人姉妹の妖しくも微妙な心の揺らめきを描き、「源氏物語」の雄大な世界を現代に蘇えらせたといわれる谷崎文学の代表作「細雪」。舞台は、戦争の足音が近づく大阪船場の名家・蒔岡家、そして、限らない優雅さの中で生まれ育った美しい鶴子・幸子・雪子・妙子の四姉妹。文豪・谷崎潤一郎が、戦時体制のもと陸軍省報道部より連載禁止の目に会ったながらも、去りゆく時代への哀惜をこめて完成させた長篇小説の映像化に、巨匠・市川崑が、みずみずしい感性と現代の視点から挑戦する。

出演は、本家の長女・鶴子に岸恵子、その夫・辰雄に伊丹十三、そして分家の次女・幸子に佐久間良子、その夫・貞之助に石坂浩二、三女・雪子に吉永小百合、四女・妙子に古手川祐子という日本映画界最高の演技陣、又雪子の見合いの相手に細川俊之、小坂一也、そして映画初出演の江本孟紀と話題も多い。

四姉妹が着る着物衣裳（協力・三松）も超豪華だ。この作品のため、に別誂えされた百数十点は、昭和十年代の大阪の名家の優雅な雰囲気を見事に再現している。

物語

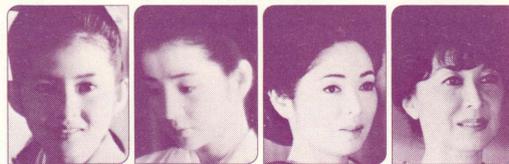
雪子の縁談がまたひとつ壊れた。芦屋の分家に居ついてしまった妹の雪子に、何とか早くいい結婚をと、姉の幸子は愛情をもって世話を焼いていたが、相手方の家系に問題があったり、また相手が乗り気なのに、雪子が曖昧な返事をくり返したりで、なかなかまとまらなかった。然し、当の雪子はさ

っぱりしたもので、気楽で居心地のいい芦屋の家で、幸子の一粒種の悦子を相手にしながら「結婚は姉ちゃんに任せろわ」と、のんびりとお嬢さん生活を楽しんでた。

こういう雪子とは対照的に、末っ子の妙子は、父親の亡くなった後に成人したせいか、格式を重んじる船場の影響を受けることもなく、考え方・生活態度がおしなべて洋風で、本家の長姉・鶴子もハラハラするほど行動的で、5年前には同じ船場の貴金屬商・奥畑家の息子・啓ぼんと駈落ち騒ぎまで起したことがあった。近頃は、性来の器用さも手伝ってか、人形づくりに精を出し、ゆくゆくは本家の世話にならず自活してゆくつもりであった。鶴子はこうした妙子の生活に反対で、お茶屋遊びをするとはいえ、由緒正しい家柄の啓ぼんと結婚し、大人しく家に入ってくれる方が嬉しかった。妙子を預かる幸子も夫の貞之助も、本家の言い分がわからないでもなかった。しかし、反対に、妙子には自分達と違った自由な生活が似合っているようにも思えた。ただ最近、妙子が啓ぼんを嫌い、写真屋の板倉という男とつき合っているらし



く、幸子は気が気ではなかった。そんな折、本家の鶴子は、夫・辰雄が勤め先の銀行から持って帰ってきた東京赴任の報せに気も動転していた。住みなれた大阪を離れるだけでなく、本家の立場上、きつい言い方はするものの、ひとつ倍可愛い妹達と別れなければならなかったからだ。こうして季節の移ろいの中で、四姉妹それぞれ、ひとつの見事な織物が織り上げられるようとしていた。



キャスト

■葦岡分家
次女・幸子……………佐久間良子
三女・雪子……………吉永小百合
四女・妙子……………古手川祐子
幸子の夫・貞之助……………石坂浩二



■葦岡本家

長女・鶴子……………岸 恵子
夫・辰雄……………伊丹十三

井 谷……………横山道代
陣場仙太郎……………小林昭二
同 夫……………新橋耐子
下妻夫人……………根岸明美
五十 嵐……………常田富士男
酒亭の内儀……………白石加代子
音 吉……………浜村 純
富水の叔母……………三宅邦紀
お 久……………三条美紀
お 春……………上原ゆかり
お 篠……………角田素子

●スタッフ

撮影■長谷川清／美術■村木忠
録音■大橋鉄矢／照明■佐藤幸次郎
編集■長田千鶴子／助監督■吉田一夫
製作担当■森知貴秀／音楽■大川新之助

5月21日(土)全国東宝系一斉公開 お得な前売券発売中
1,200円 (当日・一般1,500円の処)